

# 令和5年度 環境カウンセラー活動事例集



第7号「虫よけ剤」



令和6年3月  
環境省 大臣官房総合政策課 環境教育推進室

## はじめに

環境カウンセラーは、「環境カウンセラー登録制度実施規程」（平成 8 年環境庁告示第 54 号）にもとづき、環境省が実施している登録制度です。

環境省では、市民活動や企業・団体の事業活動を通じて環境保全に関する取り組みに従事し、豊富な経験や専門知識を持つなど一定の要件を備える方で、地域の身近な環境専門家として環境カウンセリングを行う意欲のある方を毎年公募し、申請にもとづいて書類審査及び面接審査を行い、所定の基準を満たした方を環境大臣が「環境カウンセラー」として認定・登録しています。

この冊子では全国の環境カウンセラーから、事業者部門・市民部門での活動事例を公募し、その中から選ばれた 8 件の事例を紹介しています。また編纂にあたっては、執筆者の原稿を元に掲載しておりますので、各原稿の項目番号などは統一しておりません。

SDGs の目標達成を目指す全国各地での環境保全活動などにおいて、環境カウンセラーを活用する際のヒントになれば幸いです。また、事例収集に当たり、ご協力を賜りました環境カウンセラーの皆様に対し、心から感謝申し上げます。

令和 6 年 3 月

## 目 次

大沼 晴彦	(栃木県 市民部門)	・ ・ ・ ・ ・	1
梶田 弘一	(岐阜県 事業者部門)	・ ・ ・ ・ ・	5
小坂 久仁子	(埼玉県 事業者部門)	・ ・ ・ ・ ・	9
新玉 拓也	(三重県 市民部門)	・ ・ ・ ・ ・	13
高橋 功	(岩手県 市民部門)	・ ・ ・ ・ ・	17
新田 詔三	(長野県 事業者部門)	・ ・ ・ ・ ・	21
松浦 ゆかり	(熊本県 市民部門)	・ ・ ・ ・ ・	25
山田 英夫	(東京都 事業者部門)	・ ・ ・ ・ ・	29



## 環境出前授業への取り組み 【地球温暖化と再生可能エネルギー】

環境カウンセラー 市民部門  
大沼 晴彦

### ●自己紹介：

- ・昭和22年8月24日生まれ（戦後のベビーブーム第1号）
- ・出身地：“杜の都” 仙台市
- ・出身会社：日産自動車（株）横浜工場 栃木工場に勤務  
横浜工場でエンジン部品の生産技術  
栃木工場で車軸ユニット・部品の生産技術と品質保証技術
- ・趣味：ランニング（フルマラソン17回完走）  
合唱（栃木県楽友協会合唱団員「第九」合唱へ5回、オペラ蝶々夫人へ出演）
- ・好きな言葉：足利生まれの書道家 相田みつお の「一生勉強 一生青春」
- ・所属環境団体：
  - ①栃木県地球温暖化防止活動推進員
  - ②NPO 法人うつのみや環境行動フォーラム再生可能エネルギー部会
- ・環境関係取得資格等：
  - ①環境社会検定試験（eco 検定）合格 <第14回 2013年>
  - ②環境カウンセラー（2020年取得 環境省）
- ・これまでの主な環境活動：
  - ①環境出前授業の広報・企画・運営
  - ②家庭エコ診断
  - ③再生可能エネルギー施設 市民バス見学会の企画・運営
  - ④栃木県地球温暖化防止活動推進員の座学研修会講師等



### ●出前授業の活動狙いと活動実績：

- ・「地球温暖化」は世界中が抱える最も大きな社会課題であり、誰もが参加すべきテーマである。
- ・多くの人に情報を届けるために所属する「うつのみや環境行動フォーラム再生可能エネルギー部会」では、小学校と学習センターでの出前授業 や環境講座を5年前から実施中。今年度末で授業実績は受講先60件、受講生数は累積で2,000名を超えます。

#### <授業への狙い>

- 1) 実験体験の重視（五感に訴える）
- 2) 受講生対象は小学校高学年生を基本
- 3) 講義にはクイズを入れる
- 4) 授業時間は45分 60分 90分 120分の4種を基本
- 5) 小学生低学年と中学生向けの教材も準備
- 6) 実験器材はネットの完成品購入と自作品を準備（県市援助金や環境団体助成金を活用）
- 7) 広報活動実施（小中校校長会、放課後子ども教室、子供の家への出前授業募集案内配布及び広報うつのみやへ授業募集掲載他）

#### <授業・講座の活動実績>

- 1) 2019年度：【授業先 2件 受講生 111名】
  - ①河内生涯学習センター（受講生 19名）
  - ②雀宮中央小学校（受講生 92名）
- 2) 2020年度：【計授業先 6件 受講生 110名】
  - ①YCC西原学地域活動グループ（受講生 10名）
  - ②西原小学校（受講生 25名）
  - ③宇都宮市環境学習センター（受講生 13名）他
  - ④陽東小学校（受講生 11名）
  - ⑤明治南小学校（受講生 16名）
  - ⑥陽東小学校（受講生 15名）
- 3) 2021年度：【授業先 8件 受講生 203名】
  - ①環境学習センター（受講生 29名）
  - ②河内生涯学習センター（受講生 29名）
  - ③明治南小学校（受講生 24名）他

4) 2022年度：【授業先 22件 受講生 789名】

- ①雀宮中央小学校（受講生計 86名） ②宇都宮市環境学習センター環境講座（17名）
- ③西が岡小学校（11名）他

**2023年度環境出前授業進捗状況：**

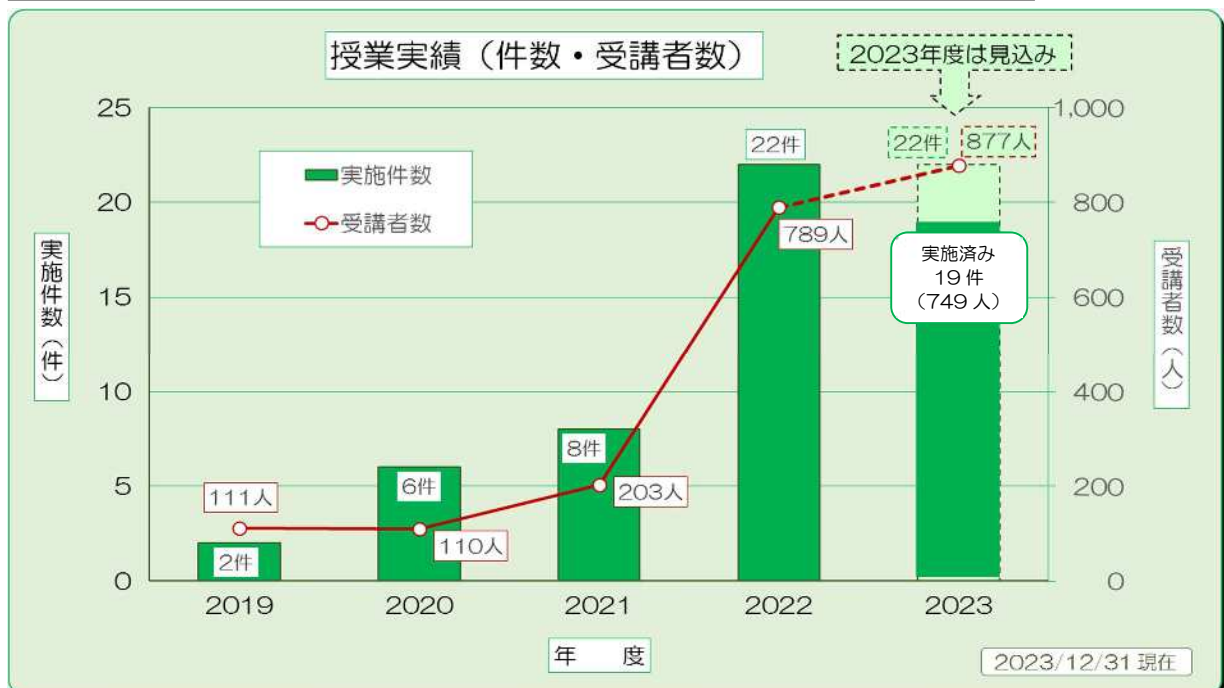
【実施済授業先 21か所 受講生数 832名 年度末見込み 22か所 受講生数 877名】

- ①宇都宮市環境学習センター（受講生 29名） ②宇都宮市民大学（受講生シニア 26名）
- ③本郷北小学校（受講生 40名） ④豊郷生涯学習センター（受講生 34名）他

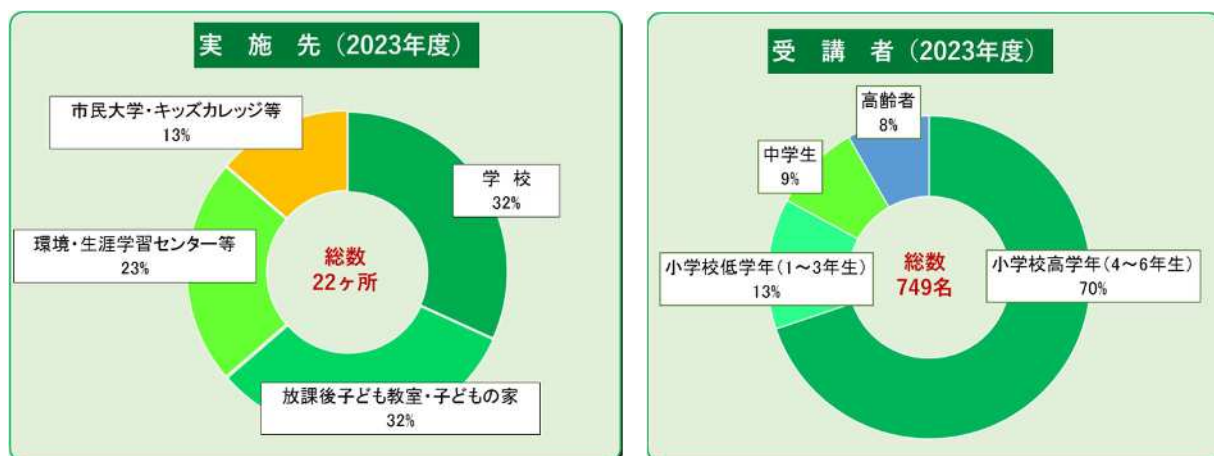
**今年度の特記事項：**

- 1) 今年度もソーラーカーや太陽熱風車及びかざぐるまの工作体験授業の申し込み割合が多い。工作体験授業は19件で授業全体の86%（ソーラーカー工作11件 太陽熱風車工作7件かざぐるま工作1件）
- 2) 受講生数も今年度は累計877名になる見込みで、1回の受講生は平均40名だが100名にもなる小学校もあり、スペースの取れる体育館や2班に分けて密にならない様な感染対策を配慮した授業を実施している。授業後に受講生へのアンケートを実施し参考にしている。
- 3) 今年度は地元の宇都宮大学との連携活動を行い授業の見学や会場設営の協力、低学年向けの講義の講師等を活動して頂いている。
- 4) 今年度は宇都宮市役所を通じて、市内の小学校放課後子ども教室の指導員全員へ出前授業のチラシ配布を実施した効果があり、放課後子ども教室からの授業申し込みが多く（7/22か所 32%）約1/3に達した。

**実施件数・受講者数の推移（年度末受講者見込み数 2,090名）**



## 授業対象分類



## 出前授業のプログラム

【目標：実験と工作体験を重要視した授業の企画・運営】

区分	名称	対象	所要時間	費用
講義	地球温暖化と再生可能エネルギー	小学4年～6年	20～30分	無料
	地球がおねつだ (本編・おさらい編)	小学1年～3年	20分	無料
実験	おもしろ実験	小学1年～6年	30分	無料
工作	ソーラーカー (模型)	小学4年～6年	60分	無料※
	太陽熱風車	小学4年～6年	30分	無料
	かざぐるま	小学1年～3年	20分～30分	無料

※今年度はセブンイレブン記念財団助成金を得てソーラーカー工作も無料を実現

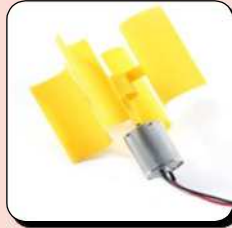
## おもしろ実験装置紹介

【6グループ8種類の実験器材を使い5分毎のローテーションで班毎に実験体験をする授業】





風力発電



温度差発電



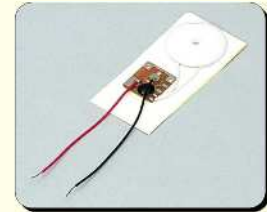
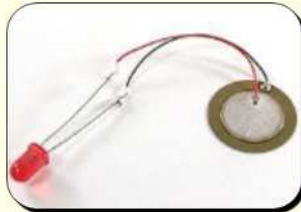
スターリングエンジン

ペルチェ素子

水素発電（燃料電池車）



振動発電



圧電素子（ピエゾ素子）

授業風景

講義



「地球温暖化と再生可能エネルギー」の講義

実験



再生可能エネルギー模型の実験

工作



ソーラーカー模型の工作

●今後の進め方：

- ・現在、来年度の講義内容の改訂を進めており、より理解と関心が高まる出前授業とする。
- ・受講生の年齢層の幅を広げ、受講生累計 3,000 名を目標に活動を継続して行きたい。

令和 6 年 2 月 11 日

一石三鳥狙いの挑戦!!

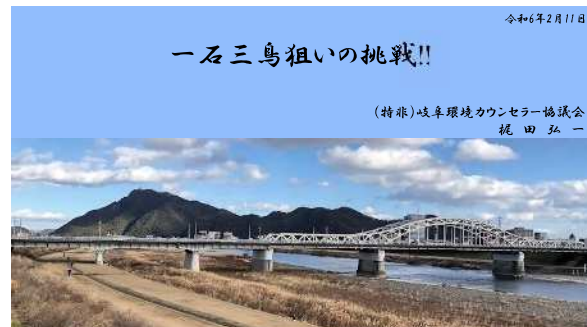
（特非）岐阜環境カウンセラー協議会  
梶田弘一



岐阜環境カウンセラー協議会の梶田弘一と申します。本日は、このような場に参加させていただき、ありがとうございます。

テーマは、ごらんのように「一石三鳥狙いの挑戦!!」ですが、この発表に至った想いの全てが凝縮されております。本題に入ります前に私たちの置かれている状況について、一言、申し上げたいと思います。

冒頭、「岐阜環境カウンセラー協議会の・・・」と、申し上げましたが、当協議会は平成 18 年、それまでの親睦団体「環境カウンセラー岐阜友の会」から、エコアクション 21 地域事務局を担う母体として、NPO 化したものです。



以来、17 年余を経ておりますが、令和元年 9 月、その地域事務局返上とともに生じた NPO 存続の危機を辛うじて回避し、現在に至っております。

当協議会を預かって、今までの活動を振り返ってみますと、「エコアクション 21」を担う NPO としてスタートしていることもあり、当然の帰結とも云えますが、「エコアクション 21」以外の活動が皆無に近い状態であることに愕然としました。

それでは、これからどうするか、一環境カウンセラーとして、自問自答してみた時、「環境カウンセラーが世の中から期待されているのか」、「世の中に必要なのか」、「環境カウンセラーが居なければ、世の中に不都合が生じるのか」等々、これらを考え、周りを見渡してみると、いずれも「NO」ではないでしょうか？

こんな感じ、みなさんありませんか？

「さあ、どうする？」ですが、今まで、私たち自身が「自己 PR に努めて来なかった」、「環境に拘り過ぎていなかったか？」ではないでしょうか？「環境は大切だけれど、それにばかり関わっていると、経済が・・・」という社会のムードを考えた時、「地域資源を活用し、環境・経済・社会の課題を解決する」地域循環共生圏の考え方を明確に示しつつ、環境問題へ取り組むことがわれわれの務めではないかと思う次第です。



これからが、本題です。テーマとして、「一石三鳥云々」と申しましたが、20世紀型経済システムから脱却を図るべく、「地域循環共生圏づくり」を提案し、その議論の中で、環境と社会の同位性を示すことが第一の目的です。

第二には、この地域循環共生圏の考え方を取り入れる中で、すべての国民と環境への取り組みに熱心な人々が同じテーブルに着き、環境と生活の融和を図ることで。そして、第三には、われわれ自身のことですが、一、二を遂行するためにも、「事業を実行する力」が必要であり、そのため、事業を多く行うことです。これらが、「三鳥」です。

この様な背景の下、本事業に取り組みました。しかし、背景に述べたとおり、「三鳥ネライ」の目標は、ロードマップが描きがたく、あるところまで行って、考え方を整理する等の紆余曲折が生じております。

今までの、最大のネックが「コロナ禍」です。3年計画でスタートしましたが、初年度には「エコプラットホーム東濃（仮称）」設立を目指したものの、活動が思うように進まず、初年度の事業量が30%程度となったため、3年目の現在も設立に至っておりません。

同じように2年目も、初年度ほどではないものの、「コロナ禍」の煽りで後れを取り戻せず、3年目へ先送りとなっています。

当初、3年計画で予定したのですが、4年を要すること、必死の状況であります。ほぼ、3年にわたって取り組んできましたが、初年度、日頃見慣れた近郊の風景でも同じ目線、空気感の中で共有する「身の周り再発見バスツアー」では、中心市街地の空き家、空き店舗など空洞化が目立つ中、郊外地では大規模店舗が建設中、その周辺では耕作放棄地、荒廃した里山などを目の当たりに、24名の参加者からは、改めて、驚嘆の声が上がりました。

これを受けた「意見交換会」は参加者も14名と減少し、機運醸成には今ひとつの状況でした。



2年目の令和4年度には、地域電力会社の実態と中山間地移住・定住事業などを見聞するツアー、土岐川、庄内川の河口藤前干潟を訪ねるツアー及びエコプラットホームの変型「井戸端会議」を3回実施しました。

井戸端会議は、今までの参加者等の意見を参考に、当面、「エコプラットホーム」に変えて、実質的な意見交換の場とするもので、参加者のお互いの活動内容を理解するとともに、自グループの活動を参加者に理解してもらう場となります。

将来、私たち「環境カウンセラー」の立場では、近年の「マイクロプラスチック」問題のような、テーマを主体的に取り上げ、情報発信する場として利用できると考えています。



そして、3年目、令和5年度は「コロナ禍」の呪縛から逃れ、新たな展開が期待されましたが、大きく拡がるところまでは至りませんでした。ただ、「地域循環共生圏入門シンポジウム」では、参加者数こそ大量動員とはならなかったものの、議会、行政からの参加者が3分の1を占めたことは、今後の展開に期待が持てそうな感じがしました。

続いての事例見聞では、「温故知新そして未来を見つめる旅」と、銘打ち、江戸時代から続く「森林管理」の実態と平成合併で生じた地域の問題を住民自ら解決しようとする「新しい地方自治」の取り組みを見聞しました。



「一石三鳥」と仰々しく並べたてましたが、社会の課題からすれば、何のことは無く「ひとつの目的」であります。

つまり、「環境と経済、社会の融合」＝課題の同時解決に向かう場づくりではないでしょうか？そして、このことが、環境対策に関する「トップランナー」を自任するわれわれ「環境カウンセラー」の果たすべき役割と思います。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

## 小坂 久仁子（環境カウンセラー 事業者部門）埼玉県

家庭にある化学物質を含む製品の使用の注意に関するパンフレット作成（一般向け）  
特定非営利活動法人埼玉環境カウンセラー協会 化学物質検討委員会（○報告者）  
大熊 幸雄、片倉 寛、中村 章、星野 弘志、堀中 新一、○小坂久仁子

### 1. 埼玉環境カウンセラー協会について

埼玉県在住の環境カウンセラーが1998年3月に任意団体「埼玉環境カウンセラー協会（略称：SECA）」を設立し、環境保全に係る活動を開始しました。2003年には特定非営利活動法人となりました。活動が評価され2004年にさいたま環境賞県民大賞を受賞し、2006年には環境省から環境保全功労者表彰を受賞しました。事業として、環境保全のための社会啓発を目的とした講習会の開催、環境教育のための講師の派遣、環境活動を行う行政機関及び団体に対する助言、指導、援助及び協働活動、自治体が主催する環境イベントへの出展、環境審議会等への委員の推薦、他NPO 団体との交流などのほかには、この法人の目的を達成するために必要な事項として「協会だより」による広報活動、啓発用小冊子の作成・配布などを行っています。

2003年にSECAの中の化学物質に関する知識を持つ人で化学物質検討委員会を設立し、表1のような活動をしてきました。今回は2010年から2017年度に発行した「家にある化学物質の使い方シリーズ」のパンフレット作成について紹介致します。

表1. SECAの化学物質検討委員会の主な活動

時期	主な活動内容
2003年	化学物質に関する知識を持つ人で化学物質検討委員会設立
	法規制やニュースになっている化学物質の事故等について情報収集共有
2005年・2006年	埼玉県環境部のパンフレット作成に協力
	埼玉県リスクコミュニケーションモデル事業に参加
	リスクミサポーター育成研修会での事例発表
	熊谷市くまがやエコライフフェアにパネル展示
2007年	理化学研究所見学
2008年	独立行政法人製品評価技術基盤機構見学
2008年～2010年	埼玉県主催；「化学物質を考える県民のつどい」ロビー展示
2010年	(財)食品薬品安全センター(秦野研究所) 見学
2010年度～2017年度	家庭にある化学物質を含む製品の使用の注意に関するパンフレット(一般向け)作成
2017年	第34回環境保全講習会「化学物質と私たちの暮らし 安全・安心へのアプローチ」開催
	NPO法人環境カウンセラー全国連合会主催「化学物質リスクアセスメント初級講習会」(SECA後援)
ほぼ毎年	熊谷市くまがやエコライフフェア、さいたま市環境フォーラム、富士見市ふるさと祭りに出展し、環境啓発活動
	環境保全講習会開催

### 2. はじめに

きっかけの1つは、駐輪場の店主の話でした。「潤滑剤のスプレーを使っていたら、気分が悪くなった。」私はその時の様子を詳しく聞いて、スプレーの成分の話をして、換気をよくして使うなどの使い方の注意点をお知らせしました。用いたスプレー缶には注意書き等がありましたが、小さな文字で書かれているためよく読めなかったそうです。

ほかにもニュースで取り上げられる化学物質に関する事故も多く、インターネットで問題になっている製品もありました。家の中を探してみると、図1に示すように多様な化学製品を使用していることが分かりました。

化学物質は殆どの方々の生活環境から自然環境まで、密接な関わりを持っています。家庭にある化学物質も適切な使い方をすれば私達に役に立つものとして歓迎されますが、間違った使い方をすればとても危険な場合もあります。そこで SECA の化学物質検討委員会では私達の生活の中で使っている化学物質として日常生活で良く使う化学製品を一つずつ取り上げて、家にある化学物質が適切に使われるように、パンフレットを作成しました。

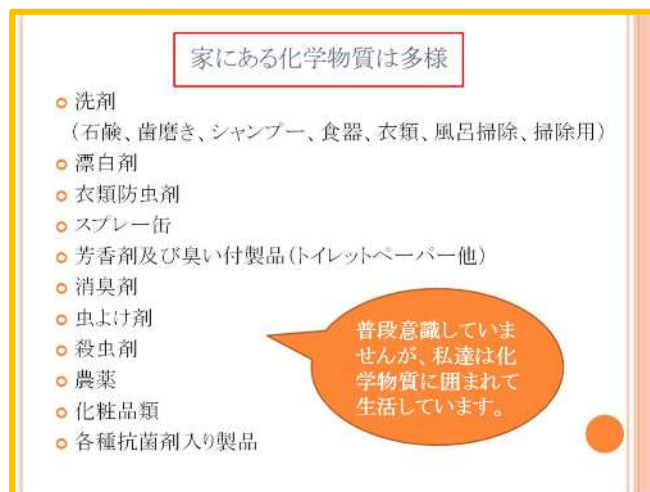


図1. 家にある化学物質

### 3. 作業の進め方

パンフレット作成は、以下の手順で進めました。

- 1) 化学物質検討委員会のメンバーが気になっている化学製品の取り上げたい事例を持ち寄り、委員会で選定しました。
- 2) 選定した化学製品に関する調査事項を委員会で検討して、担当者を決定しました。
- 3) 化学物質検討委員会のメンバーが収集した情報を持ち寄り共有するとともに、委員会で要点や課題を整理しながら必要な情報をさらに収集しました。
- 4) 得られた情報を基にパンフレットの構成案を委員会で作成しました。
- 5) 化学物質検討委員会のメンバーで分担して原稿を作成しました。
- 6) 完成した原稿を担当者が編集し、化学物質検討委員会のメンバーで校正して最終原稿としました。
- 7) 最後に印刷担当者が手配をしてパンフレットが完成しました。

\*パンフレット発行にあたり公益財団法人サイサン環境保全基金の助成を受けました。

### 4. 主に工夫した点

一般の方に敬遠されやすい化学物質の話に関心を持って貰えるようパンフレット作成にあたり以下の工夫をしました。

- どこからでも読み始められるように QA 方式にしました。
- 難しい用語や分かりにくい文章を避けました。
- 絵や図表を用いて分かり易くしました。



- もっと調べたい人のために検索先のリストをつけました。
- 手にとってもらえるよう表紙はイラストにしました（図2）。

また、掲載内容については公的な機関の出典を用いるようにして、特定の団体等の資料を用いる際には、必ず許可を得るようにしました。



図2. 発行したパンフレットの表紙

## 5. 完成品と活用

これまでに発行した8種類のパンフレットの内容を表2にまとめました。図3は内容の一部です。取り上げた内容は化学製品の使い方の注意点を中心にしなが、関心を持って貰えるような情報も取り入れました。家の中を探してみると思っているより色々な製品があることに気づいて欲しいため、自分の家の中の点検シートを付けました。

毎年1種類発行し、SECAで完成報告をするとともに、会員に配布しました。また、セミナー等での講演（図4）や自治体の環境フェアでの展示（図5）と同時にパンフレットを配布して、その内容について啓発しました。

パンフレット配布後には、アンケート調査やヒアリングにより見た人の意見を収集して次のパンフレット作成に活かしてきました。

表2. 家にある化学物質の使い方シリーズの内容

No.	発行年度	取り上げた製品	事故例	法令	製造量 / 使用量	製品例	使われている化学物質	購入時の注意点	上手な利用方法 (注意点)	保管時の注意点	不要になった時の処分方法	その他	製品安全データシート	疑問点の調べ方	自分の家の中の点検シート
1	2010	漂白剤			Q1		Q2		Q3-1	Q3-1	Q4	Q3-2環境への影響	参考資料1	参考資料2	参考資料3
2	2011	衣類の防虫剤			Q1		Q2		Q4-1		Q5	Q3衣類をしまう手順 Q4-2環境への影響	参考資料1	参考資料2	参考資料3
3	2012	スプレー缶 (エアゾール缶)	Q1	Q2		Q4		Q5	Q6	Q7	Q8	Q3スプレー缶の構造	参考資料1	参考資料2	参考資料3
4	2013	芳香剤	Q2	Q4			Q1 参考資料1	Q5	Q6	Q7	Q8	Q3新たな課題 香料自粛のお願い		参考資料3	参考資料2
5	2014	浴室で使う化学製品				Q1			Q2~4		Q6	Q5詰め替えの注意		参考資料2	参考資料1
6	2015	消臭剤	Q4	Q5		Q3		Q6	Q7	Q8	Q9	Q1臭いとは Q2臭いを消す方法		参考資料2-3	参考資料1
7	2016	虫よけ剤		Q4		Q1	Q2	Q5	Q3	Q6	Q7	Q3過信しない		参考資料1~3	
8	2017	家庭の化学製品 -安全使用読本	Q!					Q2	Q3			Q4その他の注意点		参考資料1-2	



【買うとき】⇒究極には「買わない」という選択肢もある。

①体質に合うか  
 化学製品の多くは、皮膚に直接触れるものがほとんど。かゆみや肌荒れが起きないかなど、まずは自分の体質に合っているものを選ぶことが大切。

②費用対効果  
 どんな製品を買う場合にも言えること。例えば、シャンプーには安いものから高いものまである。髪や頭皮を傷めずに洗うという効果に対して、その費用は妥当なのかを考えて選ぶことが大切。

【買った後】⇒買った以上は、しっかりと使う。

③安全への配慮  
 化学製品のなかには、使い方を誤ると危害が及ぶようなものがあり、その製品の使用上の注意事項をしっかりと守る必要がある。幼児や高齢者のいる場合は、置き場所や保管場所についても特に安全に配慮すべき。

④環境への影響  
 私たちは、自分たちが日常で使っていて問題のない製品だから、環境にも影響がないだろうと考えがち。しかし、そうではない。よって、私たちが家庭から外に排出するものについては、出来るだけ、その量を減らすように努めることが重要。




図 3. 家庭の化学製品・安全使用読本の Q2. 「まず、どんなことに注意したらいいですか？」  
 の回答 A2. 「購入する前に、次の 4 点について考えてみましょう」



図 4. 講演風景「家にある化学製品の使い方」 図 5. 展示説明の様子くまがやエコライフフェア

## 6. おわりに

日々新しい化学物質が開発され製品化されています。化学物質は私たちの生活の役に立ちますが使い方を間違えると自分や周りの人も危険が及ぶ場合があります。化学製品は、購入する前や使用する前に成分や使用上の注意を確認して、適切に使用してください。

発行したパンフレットは、SECA のホームページ (<http://www.saieca.com/index.html>) の活動状況に掲載しています。化学物質の有害性の見直しは常に行われていますので、パンフレットを参考にしながら最新情報を確認してください。パンフレットの著作権は、SECA に属します。加工し利用することはできません。2次利用を希望される場合は、予め SECA にご相談ください。

以下は個人的な感想になります。環境問題は多様です。様々な専門知識や経験を持つ人が集まり協力して作成作業を進める中で学ぶことも多く、一緒に課題に取り組む楽しさがありました。環境カウンセラーの活動を長く続けるためにも、一人で頑張り過ぎないことも大切だと感じています。何かを始めたいと考えている環境カウンセラーは、身近な環境カウンセラーの活動に参加してみてもいいでしょうか。



## 環境カウンセラー活動事例紹介

三重県

新玉 拓也

### 私の市民部門での活動を紹介します

魚と子どものネットワーク代表。三重県亀山市出身。名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程修了。在学中、環境保全活動にかかわる中で、様々なステークホルダーをつなぐ役割の重要性を実感。以降、地域の多様な活動の連携促進に尽力している。国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所・琵琶湖河川レンジャー（2008～2009）、国土交通省中部地方整備局・河川環境保全モニター（2021～）、大阪市環境審議会委員（2021～2023）、亀山市環境未来創造会議共生部会部員（2022～）、かめやま生物多様性共生区域認定審査会委員（2023～）、中部流域連携ネットワーク副代表理事、いい川・いい川づくりワークショップ実行委員。

#### 魚と子どものネットワークとして

公園・夢プラン大賞 2019 最優秀賞「里山塾」  
亀山市市制施行 15 周年記念 特別表彰  
令和 3 年度 亀山市教育功労者表彰  
第 23 回 中部の未来創造大賞 大賞  
「小さな親切」実行章 受章

#### 鈴鹿・亀山地域親水団体連携体※として

日本自然保護大賞 2019 教育普及部門  
令和 3 年度地域環境保全功労者表彰  
(環境大臣表彰)

※地域の水辺の保全活動に関わる亀山の自然環境を愛する会、水辺づくりの会 鈴鹿川野うお座、魚と子どものネットワークによる連携体

#### 1. 幼少期の原体験が活動の原点

三重県亀山市で生まれ育った私は、子どもの頃から生き物が好きで、虫を捕ったり、魚を捕ったりして遊んでいました。小学生になると、家の近くの椋川で魚を捕って遊ぶのが日課となり、今日は上流、明日は下流で魚捕り、時には水をせき止めて池を作るなど、毎日、川での冒険を楽しんでいました。そのうちに川に住む生き物に興味をもつようになり、図鑑を見ながら魚の名前とその生態を調べることに夢中になりました。淡水魚や熱帯魚を飼育し身近に過ごすようになり、より生き物、特に魚が好きになっていきました。この川遊びの体験が今の自分の原点となっています。



近所の椋川での原体験

#### 2. 琵琶湖の環境保全活動での気づきと学び

魚好きが大学進学にも大きな影響を与えま

した。滋賀県立大学環境科学部に入学し、琵琶湖のほとりで自然環境や社会環境について学ぶ充実した日々を送りました。授業では“環境調査の現場（フィールド）を自分の目で見て、問題点や課題点を見つけて解決する”ことを学びました。授業とは別に、淡水魚の分布調査を中心とした琵琶湖の環境保全プロジェクトに携わる機会がありました。そのプロジェクトは河川行政（国土交通省）と農業関連団体、魚類研究者、まちづくり活動に取り組む市民など、多くの人たちが関わるものでした。私は行政、団体、研究者、市民らをつなぐ「コーディネーター」の役割をプロジェクトに関わる中で学び、後に卒業論文でこれをまとめました。このプロジェクトでコーディネーターに着目したことが、今の市民団体での活動に大いに生かされることとなります。

大学卒業後は名古屋大学大学院環境学研究科に進み、水辺の環境保全における意識や行動について学びました。魚の生態についての研究に進まなかったのは、淡水魚の保全を取り巻く人や社会により興味をもったからです。その頃から琵琶湖だけでなく、地元である三重県亀山市での活動にも関わるようになってきました。

### 3. 団体の設立

団体設立のきっかけとなったのは、自身の環境保全活動での気づきと幼なじみの峯和也さんとの再会です。峯さんとは、子どもの頃、毎日椋川で遊んだ仲です。共に大学から初めて県外に出たことで、改めて故郷・亀山の自然の魅力に気付きました。2人ともずっと地元に行ったら、気づかないままだったかも知れません。私たちは地元で会うたびに、「子どもの頃のようにたくさんの魚がいた水辺の環境を守り、子どもたちに伝えていきたい」「大学で学んだことを地元で生かせないだろうか」と語り合うようになりました。お互い地元で何かやりたいという想いは以前からあり、少しずつ地元での活動

も始めていました。活動を通し少しずつ仲間も増え、いろんな方と交流する機会も増えてきました。そこで、活動を発信し、情報の窓口を作るためにも、ひとつの団体としホームページ等で発信をしていくことにしました。私が大学院生、峯さんが大学生だった2008年に任意団体として「魚と子どものネットワーク」を設立しました。



魚と子どものネットワークホームページ

<http://sakanatokodomo.web.fc2.com/>

### 4. 環境カウンセラーの登録に向けて

環境カウンセラーに応募した2011年当時、私は環境保全活動に関しては、少しの経験はあったものの学生から若手社会人の時期であり、社会的に認知されるほどのものではありませんでした。そんな中、「市民・事業活動において環境保全に関する豊富な経験や専門的知識を有し、その経験や知見に基づき、市民・NGO・事業者などの行う環境保全活動に対し助言など（＝環境カウンセリング）を行う人材として、登録する」という環境カウンセラーの制度を知り、チャレンジすることにしました。申請にあたっては、これまでの活動でお世話になった博物館に活動実績証明書を依頼したり、自身のこれまでの活動をまとめたりしました。課題論文や面接もありましたが、今までの活動での経験や思いを伝えた結果、無事に環境カウンセラーとな



ることができました。若さと勢いで団体を立ち上げたため右も左もわかりませんでした。団体代表として少し自信がついたことを覚えています。

## 5. 魚と子どものネットワークとは

「魚と子どものネットワーク」は魚が棲める水環境を保全し、それを次世代に伝えていくことを目的として、2008年に亀山市出身の学生の有志が中心となり、設立した任意団体です。その後活動を続ける中で、立ち上げメンバーはそれぞれ就職しましたが、公務員、会社員、教員、弁護士などの若手社会人や地元の大学生、高校生、中学生などの熱心な学生が取り組みに参加し、会員数は現在約50名となっています。主な活動内容として、「水辺の保全」、「環境教育」、「コーディネーター」を掲げ、多様な取り組みを行っています。「水辺の保全」として伝統的な農業管理手法である池干しを利用した外来種の駆除活動や希少淡水魚類の保全活動、市内の淡水域における生物相調査を行っています。「環境教育」としては地域の子供達を対象に生き物をテーマとした自然観察会や亀山里山公園みちくさにおけるイベントの企画・運営などを行っています。また、「コーディネーター」として、水辺の保全活動や環境教育に関わる行政、学校、企業、他の市民団体など多様な主体をつなぎ、取り組みを推進するネットワークづくりを行っています。

## 6. 魚と子どものネットワークの活動事例

### 6-1 活動事例① 行政との協働事例

#### 亀山里山公園みちくさ「里山塾」

里山塾は、亀山市を事務局、地元や市民団体等を会員とする亀山里山公園みちくさ管理運営協議会が主催する里山を題材とした環境学習のための講座です。2009年よりイベントとして試行的に行われ、2016年からは年間講座として行われています。里山公園内に生息する動

植物を、見て・触れてもらい、季節による自然の移り変わりなどを体感し、楽しみながら身近な自然環境への興味・関心を深めると同時に、自然を通じて地域愛、地元愛を育んでもらう事が主な目的です。淡水魚については魚と子どものネットワーク、亀山の自然環境を愛する会、水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座、植物については亀山市自然に親しむ会、昆虫については三重県北部の昆虫を調べる会が主に講座を担当しています。魚と子どものネットワークとしては、副代表が協議会の会長を務めるとともに、協議会や各種イベントのコーディネーター役を担うなど、里山塾の中心的な役割を担っています。



里山塾「池干し体験」

### 6-2 活動事例② 企業との協働事例 水質調査と水辺の自然観察会

2023年度より、伊賀市において美容室向けヘア化粧品メーカーの株式会社ミルボンと協働し、「水質調査と水辺の自然観察会」を実施しています。きっかけは「国内最大の生産拠点である『ゆめが丘工場』がある伊賀市周辺で、水環境保全に取り組みたい」という相談でした。地域との連携・調整やフィールドでの準備などを魚と子どものネットワークが担い、社内外への呼びかけやイベントの準備などを株式会社ミルボンが担当しました。

取組み初年度となる 2023 年は、キックオフの打合せ、排水経路の水質調査、水質調査と水辺の自然観察会を実施しました。自然観察会は、地域の子どもたちに水辺の環境へ目を向けてもらい、その保護と継承の大切さを伝えることを目的に実施し、総勢約 50 人が参加しました。参加者からは「身近な川にこれだけの生き物がいることを知らなかった。これからも子どもと一緒に水に親しむ機会を持ちたい」といった声があり、服部川の水質の良さや生態系の豊かさを再確認できるイベントとなりました。今後も協働活動を継続し、豊かな水資源の保全と次世代の育成に取り組んでいく予定です。



水質調査と水辺の自然観察会@服部川

### 6-3 その他の活動事例

本稿で紹介した事例以外にも、「水辺の保全」、「環境教育」、「コーディネーター」に関わる様々な活動を行っています。

「水辺の保全」としては、鈴鹿川流域の様々な場所で「鈴鹿川探検隊」と題し、自然観察や清掃活動を行っています。また、地域の水路やため池でモニタリングを行い、希少種の保全を行っています。海岸では、ウミガメの保全団体や地域の団体に協力し、海岸清掃も実施しています。

「環境教育」としては、保育園や学校、大学などの授業に協力し、生き物の観察などを行っています。企業の依頼で子ども向けの自然観察会

やイベントを実施することも増えてきました。子育て支援の取組みの中でも、生き物や自然の魅力伝える普及・啓発活動をしています。また、団体内に親子クラブ「魚と子ども Kids クラブ」を立上げ、子どもが自然に触れる機会を作るとともに将来のリーダーを育てています。「コーディネーター」としては、多様な主体の連携構築につながるよう地域のつなぎ役として活動しています。他の市民団体や専門家の方とともに、「亀山市環境未来創造会議」、「かめやま生物多様性共生区域認定審査会」などで行政に協力しています。広域な取組みとして、「いい川・いい川づくりワークショップ」、「中部流域連携ネットワーク」などで、広域な連携構築にも取り組んでいます。その他、「22 世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会」の支援など、世代を超えた連携や次世代の育成にも取り組んでいます。

### 7 今後の展望

活動は少しずつにぎやかになってきていますが、それでも活動を継続していくには、人手が足りないのも事実です。今後も広報や情報発信を積極的に行い、新しい仲間づくりを行っていきます。特に今までつながりがなかったような分野との協働は新しい発見や気づきを与えてくれる可能性もあります。先入観にとらわれず新しいことにチャレンジしていきたいと思います。

もうひとつ欠かせないのが次世代の育成です。団体設立時に指導していた小学生は現在大学生となり、メンバーとして活躍してくれています。活動を機に環境保全や生物について学ぶ大学に進学する学生もいます。親子クラブ「魚と子ども Kids クラブ」や学生の支援にはさらに力を入れ、次世代のリーダーを育てていきたいと思っています。また、これらの日々の活動が次世代の「環境カウンセラー」の育成につながれば幸いです。

## 環境カウンセラー活動事例紹介



岩手県

高橋 功

私の市民部門での活動を紹介します

岩手県内を中心に活動している環境カウンセラーの高橋功です。私は、岩手県環境カウンセラー協議会で監事、そして地元滝沢市のたきざわ環境パートナー会議で、わくわくエネルギー教室代表をしています。15年ほど前に行ったエネルギー教室で、参加して下さった子供たちの目が輝いていることに驚き、私なりに環境とエネルギーについて心に響く取組はできないかと思い、大人から子供まで楽しく・わくわくしながら模擬体験し理解を深めていただけるよう、ダンボールなど身近な材料でつくった道具と手回し発電機などを使った活動をしています。

様々な情報がすぐに取り出せる時代ですが、テレビのニュースや新聞を見ない方が増え、環境について考える人も減少しているように感じています。

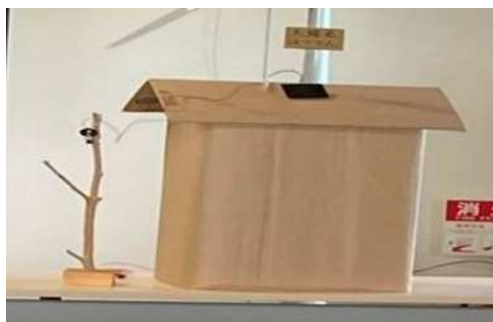
また、温暖化に大きく影響しているといわれている温室効果ガスの殆どは大人が関わっているのに環境に感心が薄く、これまでのやり方を変えることに抵抗がある大人も少なくありません。

そこで、大人だけでなく将来を担う子供たちにも、楽しみながら模擬体験を通して理解を深め行動に繋げ、お家では“リーダーとして活躍していただくこと”なかなか自分の生活スタイルを変えることができないでいる大人にも、変化を与えることができると考えています。

こうした取組は、参加して下さった方が昨年末には11,000名を超えることができました。

### 1. “築15年の我が家”（模型です）

これが築15年の我が家です。窓にLED電球や白熱電球を付けたりと何度か改築していますが、屋根には太陽光パネルも載っていて、豆電球式の懐中電灯で照らすと脇にある街灯が点きます。



太陽光パネルも設置されている我が家



窓にはLED電球と白熱電球も



裏を見ると手回し発電機で LED 電球と白熱電球の違いを体験できます。  
そして、我が家の模型は「家庭の年間消費電力の 14% も占めている  
“冷蔵庫” に変身し」、裏を開けると、参加して下さった方が手回し発電機を回すこ  
とで、庫内の照明やプロペラが回り、ほとんどの家庭で使われている間接冷却方式の  
仕組みを知ることができ、効率のいい食品の入れ方やエコな使い方を理解することが  
できます。



冷蔵庫に変身！！



冷蔵庫の仕組み“間接冷却方式”が見える？

## 2. ビック本の紹介

“楽しく” “わくわく” そして模擬体験を通して理解を深めていただく事を目指して  
いますので、パワーポイントはあまり使わず、事前の打合せでテーマや内容をお聞  
きし、タイトルも確認していただきながら、この“ビック本”を使っています。



## 3. 活動の様子

こちらは幼児園児にお話ししている様子です。  
環境に感心が薄く、これまでのやり方を変えることに抵抗がある大人も少なくありま  
せんが、子供や、孫から言われると“やる気スイッチが入り”行動に繋げていただく  
ことができます。園児にはダンボールでつくった冷蔵庫で遊んでもらいながら、お家  
の人にも教えてあげてね！！と話しています。



#### 4. 学童クラブや小中学校での環境学習

岩手県地球温暖化防止活動推進センターが発行している「地球温暖化を防ごう隊員ノート」などを使った学習を行い、学童クラブではエコな遊びと合わせて計画し、小中学校の環境学習会では、様々な再生可能エネルギー発電を模擬体験し、それぞれが得意とするところや、工夫が必要な点を理解していただくことで、再生可能エネルギーだけに頼るのではなく、省エネに向けた取り組みが必要な事を伝えています。



LED電球と白熱電球の違いを体験



冷蔵庫の仕組みに聞き入る子供たち

滝沢市：ひかりの森学童クラブでの様子

#### 5. 岩手県主催のエコスタッフ養成セミナーと自治体が主催のする環境学習



釜石・大槻会場：エコスタッフ養成セミナー



久慈市：家庭でできる温暖化防止の取り組み

#### 6. 環境イベント

岩手県主催の環境イベントでは、エコロルが手回し発電機を回して風をつくり、黄色いかぼちゃの煙突からハウイン風船を出しています。(次ページ左) また、手回し発電機を回すことでクリスマスツリーについているLEDテープライトも点灯しています。(次ページ右) (テープは5本あり全て点灯させるためには5人の協力が必要です)



## 7. 新聞やテレビでのエコ生活の発信

季節にあわせてエアコンをはじめ冷蔵庫などの電気製品のエコな使い方や、エコドライブ、そして住宅から一番熱が逃げている窓の断熱対策等について情報発信しています。中でも、我が家で10年以上前から行っている窓の断熱対策は、引っ越し等で使うプチプチロールと違い、薄いビニールを下げ空気のお部屋をつくることで窓から外も見え、5度もの温度差が出ます。暖房費をお考えの方はぜひ試してみてください。



2022.10.13 岩手日報より



環境カウンセラー全国連合会で紹介していただきました

## 8. エコな遊び

環境学習の後は、ダンボールとトイレットペーパーの芯を使ってエアカーリング(左)を作ったり、ススキと輪ゴムでススキ鉄砲(右)を作って遊んでいます。

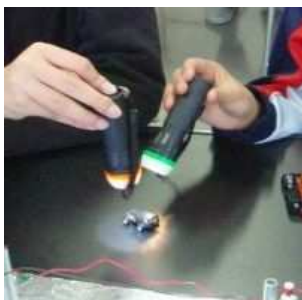


滝沢市：ひかりの森学童クラブの子どもたち



滝沢市：滝祭(TAKI-SAI)2023

## 9. 最後に



小学校での環境学習

どの学習会でも大好評なのが世界最小のソーラーカーを懐中電灯で走らせる体験です。子供たちはどうやったら早く走らせることができるかを、大人には自宅の屋根にパネルを設置する際のポイントが体験できます。

これからも環境の種まきを続けていきます。



## ゼロカーボンは私たちの心の変革から始まる

サブタイトル：ゼロカーボン対策は自分・地域の暮らしを良くする活動

地球温暖化対策に主体的に参加することは

自分の周りの環境を  
●緩和策  
●適応策  
で良い方向に向けられるのだ！

★生活が豊かになり  
★調和のとれた環境でころがはずみ  
★人との対話もすすみ、生き甲斐の世界が広がるのだ！  
★ここ、こそが私たちが望む世界だ！  
★私は気が付いた、地球温暖化対策も環境を守り、私たちの生活を守り、幸せな地域を創ることなんだ！

### 現在と今までの環境活動

1. 地域の消費者展での展示・講演の実施
2. 2050ゼロカーボン時代を生きる小学生（33歳頃）と学ぶ環境体験学習
3. ゼロカーボン普及のための講師、及び環境活動

令和6年2月11日  
環境カウンセラー 事業者部門  
長野県地球温暖化防止活動推進員  
新田 詔三（ニギタ ヨシツグ）

## 1. 地域の消費者展での展示・講演の実施

①令和5年11月18日（土）丸子文化会館  
第37回上田市丸子地域消費生活展

参加者約300名、老若男女を問わず皆さん関心を示してくれました。

・3.11東日本大震災を契機に自然エネルギーに対する関心が高まり、自然エネルギー・省エネ活動・普及を目指して数人の仲間で「エネルギー上小ネット」の任意団体を立ちあげ、現在に至っています。

・コロナ禍前は同一会場で仲間と講師を担当



②上田市主催の創造館での“うえだ環境フェア”

③東御市“暮らしを見直そう展”

で行政と共同で10年以上(コロナ禍以外) 継続して展示会・ミニ講演で市民に SDGs・省エネを、こどもへは環境 体験を仲間と共に実施してきました!



2. 2050ゼロカーボン時代を生きる小学生と学ぶ環境教育

私の犬の育て方による研究例

■人の場合■  
育ちがほとんどで、その“人となり”が決定され、どんなお子様も無限の可能性があるとされています。

■動物の場合■  
種によってどのように育つかはほとんど決定されていて“氏”がほとんどだと言われています。

①ジユン 12歳	犬の習性の姿 (写真画像)	①ナナ 8歳
②パピヨン メス	②種類・年齢	②チワワマル メス (チワワとマルチーズのミックス)
③脚能が高く、姿勢が綺麗です。飼い主の味方になります。	③性別	③ 陽気で人懐っこく、吠え声や噛み癖など聞かされたら困ります。
飼い主(丁さん) 娘とはあまり考えずに放任主義で育てた。	飼い主の犬の育て方	飼い主(アさん) 「高貴・礼儀・おもいやり」で愛情を持って育てた。
飼い主(丁さん) の家の玄関を綺麗にするのが好きです。娘がやり難い犬としては、落ち着きがない。	イメージのイラスト	ナナは早くに住む愛する息子が購入してくれた愛犬で愛情こまやかに育てました。

犬の習性

犬の育て方

◆環境カウンセラーの東御市在住の宮原則子様、東御市生活環境課の皆様と長野県地球温暖化防止活動推進センターの応援を頂いて、1昨年から4つの小学校にゼロカーボンの体験学習を実践しています◆

グループの全員が発電器のことや、LED・蛍光灯・白熱電球の違いを学び、手と目で体験しました!

令和4年12月16日、祢津小学校での体験学習会



校長先生も一緒に参加してくれました!

令和5年2月14日、和小学校での体験学習会



令和5年12月14日、田中小学校での体験学習会



小学6年生がグループごとに学校内をまわって、環境改善できることでの意見交換をし発表!

令和5年2月14日、和小学校での体験学習会







コロナ禍前の佐久市泉小学校での環境に関する体験学習



長野県地球温暖化防止活動推進センターの実験機器・環境教材を活用

令和6年1月30日、千曲市屋代小学高1年生の、体験学習



長野市稲花小学校での電気体験教室



太陽光（ソーラー）



3. ゼロカーボン普及のための講師、及び環境活動

令和5年11月8日、長野県上田市役所の主に係長クラスの皆様に講演をしました。（約70分、参加者60名）  
（具体的な省エネなどの環境問題をより深く理解頂きました）

2009年頃から、仲間の協力を得て、8年間 継続して毎月「省エネのススメ」記事を執筆しました。（日刊2万部）

- 公共施設の脱炭素化について
- [1] ゼロカーボンについて
  - [2] 公共施設における節電・省エネについて
  - [3] ゼロカーボンに向けて行政職員一人一人ができること

上田市 少ないエネルギーで暮らせる環境にやさしいまちづくり

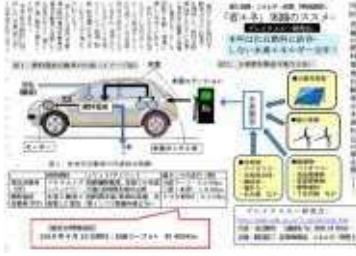
ドイツのフライブルクの住宅地の土地利用 & 交通政策について説明



日本の政策：立地適正化計画  
コンパクトシティ・プラス・ネットワーク



（参考記事）「東信ジャーナル」に連載した100回の記事の70回での記事



コロナ禍前の「つくば開成学園高等学校」での環境学習会＆「緩和策・適応策」を一緒に学習しました。





## “うえだ環境市民会議” 企画運営委員として活動

毎年開催の「環境をよくしたいひと大集合2023」には環境活動団体（小学生・大学生・NPO・市民会議メンバーなど11団体）による発表会・意見交換会をしています。

私は“SDGsプロジェクトチーム”で SDGs普及の講師をしました。  
（下記は一部抜粋） 実施日：令和5年11月25日（日）上田市中央公民館

### SDGsってなに？

SDGsは2015年9月の国連サミットで採択。国連加盟195か国が2016年～2030年で達成するために掲げた17の目標です。

### Sustainable Development Goals の略称

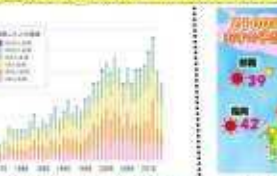
SDGs は世界の全ての人たちが（あなたも含む）が幸せになるために、世界の皆で取り組んでいく17の目標です。

「忘れ一人とり残さない」

私たちが今行動しない限り、気候変動が子供に与える影響。今日の子とちたちとその子とちたちは、気候変動の結果とともに生きる人たちです。

### 【1】気候変動による影響

人に影響を及ぼす気候変動の痕跡や影響を察する人の数は1970年～2010年の約40倍増で、引き続き増えている。



出典：ipcc 'report communication'

“うえだ環境市民会議”の主催による「環境と平和のマルシェ」、令和5年9月3日（日）  
開場：上田城跡公園駐車場



丸子修学館高校の学生による古着のファッションショー



## ご清聴ありがとうございます！

行き場を失い絶滅するおそれがあります  
（八ヶ岳の「高山植物の女王」コマクサ）



環境カウンセラー活動事例発表

八代市における青少年による環境自主活動の支援活動

～ 地域を学ぼう！ 発信しよう！ そして次の世代へ！ ～

環境カウンセラー市民部門（2010年登録） 松浦ゆかり

年間を通じた活動「自然環境体験 SDGs 活動」

任意環境保全団体「次世代のためにがんばろ会」の代表として全企画、運営を務めている。主な内容として

- ① 市役所と協働での環境出前授業：資源循環型・5R推進・啓発  
内容はごみ問題・マイクロプラスチック問題・水の学習など
- ② 身近な川の水質診断：授業として現地3か所で水質検査・水生生物観察
- ③ 八代海河川・浜辺のおおそうじ大会：メインイベント
- ④ 子どもゴミパトロール隊：地域の河川ごみを調査・拾い・分別
- ⑤ 「リユース食器の無料貸出し」イベント等のごみを減らす意識改革
- ⑥ ごみゼロポスターコンクール：球磨川流域の高校・中学・小学生対象
- ⑦ 学習会の教材作成・教育関係贈呈  
（ふるさとエコかるた・こども自然とくらしの図鑑・干潟の生きもの冊子など）
- ⑧ 高校探求の時間での出前授業や講演依頼
- ⑨ エコユースやつしろ：体験活動 など。



資源2分別を高校生が小学生に指導



現場（3か所）での水質・生物検査



マイクロプラスチック問題の授業



市内高校生700人参加の大そうじ大会



無料リユース食器貸出しチラシ



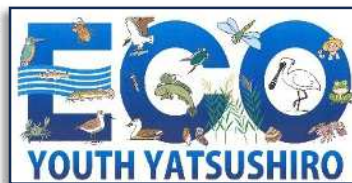
地域エコかるた作成し小・中・高校贈呈

「23年間の活動の課題と解決策：青少年チーム設立」

健全な自然生態系は、生物多様性により保持されていることはもちろん、広大な干潟の存在や日本遺産がある歴史などを知らない子どもは勿論、地域の大人たちが多い現状。

そこで、「子ども達への教育」が重要と考え生息環境の保全を目的に、地域の身近なフィールドで学ぶ企画を計画し、2021年度「エコユースやつしろ」という高校生チームを母体の次世代のためにがんばろ会傘下に発足させた。

環境保全や地域学をメインとして、講師は一流の専門家を招聘し、彼らは学校では学べない貴重な座学や体験型で学んでいる。





## 「エコユースやつしろ」2021年発足！

- ・八代市内の高校生によって構成：現在会員 62 名
- ・熊本県八代市を拠点として活動
- ・地域を知ることから！そして自ら学び次に伝えるために発信！



## 「エコユースやつしろ」の体験型活動：年間約30の企画の一部紹介

### ① エコユースやつしろ説明会・発足会の運営

毎年新年度最初に「エコユースやつしろ」の入会のための説明会と入会した高校生の発足会をしている。  
2023年度からは、企画から司会進行など運営をすべて在籍メンバーにさせ、運営の大変さを経験させている。  
このことにより、準備から進行などの経験が次に繋がり突然の使命にも難なくこなせるようになった。  
会終了後、良かったところや反省点も全員で語り合い、次の企画は確実に前進している。



在籍メンバーの司会進行

### ② 「第19回八代海河川・浜辺の大そうじ大会」エコユースやつしろが運営

次世代のためにがんばる会が18回企画、運営をしていたメインの大企画。①の経験を元に、2023年度からはメンバー全員に企画運営を任せている。  
八代市内の6つの高校有志が集まるメンバーで、学校の中での話し合いは出来ず、高校で行事が違うため、オンラインで会議や役割を決めて臨んだようだ。  
当日は人を動かすことに苦勞をしたようだが、しかし、このような体験は社会に出た際に役立つことと思う。



エコユースやつしろによる運営

### ③ 不法投棄視察会

河川の上流からの漂着ごみ拾いも体験するが、人が普段行かない浜辺には、大量の、それも大きなごみが捨ててあり、その現状を知ること、そして、その現状を市民へ伝える何かの形で啓発することを考えさせ、インターネットや公の場でのパネルセッションの形や地元ラジオ番組での情報発信をさせている。



真新しいベビーカーの不法投棄

### ④ 田んぼの生きもの調査

無農薬、減農薬の田んぼを借りて、どんな生きものが棲んでいるのか。そして、そのためには農家の方々がどんな苦勞をしているのか。また、その田んぼに引き入れる水の流れがどこからきているのか。現在と過去の違いなど農家の方に現場で話を聞き、また専門家の指導を受けて、いきもの観察での生物多様性を学ばせている。



無農薬田んぼで生態系を学ぶ

### ⑤ マイクロプラスチック検査と干潟観察会

神奈川県NPO法人RILAの伊藤氏の指導を受け、地域の小川で子魚を捕り、腸を取り出し2週間薬品に漬けた腸をマイクロスコープ顕微鏡で調べさせる。日常的に使う衣類くずが洗濯排水から流れ出すこと、人間が排出するプラスチックが生態系に及ぼす害を考えさせ、プラの発生抑制や、海洋投棄問題など太平洋ごみベルトなどに繋げて考えさせる。併せて環境ホルモン害も学ばせている。



マイクロスコープ顕微鏡で観察

## ⑥ 地域の水に関する歴史見学会

環境問題を語る前に、まずは地元の自然環境や歴史を知ることが大事だと考え、毎年地域の歴史や成立ちの現場を廻る見学会をしている。「田舎で何も無い」という大人が多い中、毎年参加したメンバーは、「地域の宝、名勝」を訪れ、専門家からの説明を受ける見学会は、毎年行く時と帰るときの表情や感想が変化していることに驚く。特に水害地で地元の語り部の声には感激しているようだ。



災害地で地元住民のヒアリング

## ⑦ 青少年水サミットinやつしろ 各分野の専門家の講演を聞いての意見交換会

新型コロナの影響で対面での企画ができなかったときにオンラインを使い、日本各地の専門家に講師を招聘して「青少年水サミット」を開催し、メンバーの意識を高めた。対面ではできない日本各地の講師の招聘はWEBでの情報交換を得ることのメリットがあり、その後、定期的なオンライン講演会もしている。その結果、県外の高校生と報意見交換も増えている。



初めてのオンラインでのサミット

## ⑧ 長崎未来キャンプへ進化

オンライン講師の繋がりや、各地の高校との交流をしたということになり、長崎の中・高生と交流勉強会とWSを年1回開催している。この企画に互いの県、市などの行政の関わりも増えている。



長崎と八代の青少年が交流WS

## ⑨ 高校生SDGsサミットinやつしろ

全国アマモサミットで交流した県外の高校との交流を深めていこうと、team長崎シー・クリーンという団体と共催で主催で高校生SDGsサミットinやつしろを開催した。複数県の高校生が集い、環境問題の課題を環境省、農林水産省、国土交通省などに話題提供を頂き、高校生が改善策を考える交流WSと意見交換会である。将来的には九州、沖縄を廻して開催する意気込みでいる。



3つの県から参加した高校生

## ⑩ ユース交流干潟観察会

アマモサミットで交流した県外の高校生との交流観察会を開始。現在では渡り鳥ならぬユースの交流飛来が話題。各高校の調査や観察の仕方を学び、自分たちの活動への向上を目指している。また互いの干潟の特徴などを学び合い、地元干潟の紹介もできるメンバーに育成中。



球磨川河口で野鳥観察会

## ⑪ 海外ユースとのオンライン意見交流会（英語）と英語3分地域紹介の動画作成

- 海外ユースとの情報交換会を年2回ほど開催。互いの活動発表・ディスカッション、メールのやり取りもユースメンバーの役割にしている。
- 地域の紹介3分動画作成をするために、地域ヒアリング・散策して地域のことを学び、自分の考えを自分の言葉でまとめさせることで自分ごととして考える。結果地域の良さを知り、自慢できる情報発信ができている。



←海外ユースとの情報交換

地域紹介動画↓







アジア太平洋水サミットで活動紹介



全国アマモサミットに参加



八代市役所フロアに活動パネル展示



市のイベントでパネルセッション



八代市役所玄関でもパネルセッション



地元ラジオの生放送で情報発信

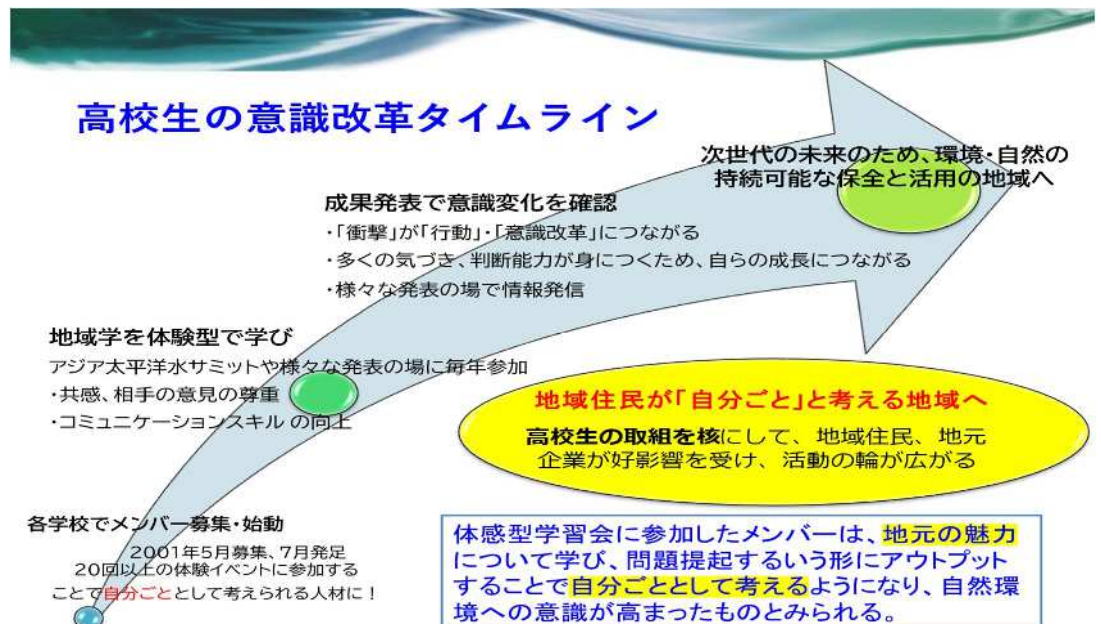
### ユースが学んだことを地域、世界へ発信！

#### 目的

1. ただ活動に参加した！ではなく、体験活動の振り返りをすることで、そのことを理解し、自分の記憶に残る。・自分たちで行った活動を見つめ直すことができる。  
・どのような目的で行っているのか再確認
2. 感想を伝えることで自分の言葉で発言できるようになる
3. インタビューを受けることで、コミュニケーション能力が向上する

#### 内容

- その1 市役所玄関で活動紹介と不法投棄の啓発
- その2 地元ラジオでの活動振り返りを発表
- その3 対外的な発表の場で場数を踏む
- その4 年度末最後に成果発表会で1年間の活動を話し、次への目標立てとなる



#### 今後の展望

私が成果を出してきた「人と人が繋がる活動」の仕組みを、次世代を担う青少年や他の活動団体の活動でも引き継いで貰えるよう、地域の関係者に関わってもらい、活動を広げる秘訣等を伝えていきたい。そのため情報発信や青少年育成にさらに注力していきたい。



## 1 フードバンク事業(自治体)

### 災害備蓄食品のマッチング



災害大国と言われている日本では、災害備蓄食品の備蓄が必須です。備蓄も多くは、使われないまま破棄されてきました。最初の活動は、今まで食品ロスと認知されていなかった災害備蓄食品(※当時は食品関連事業者でないので食品リサイクル法対象外)をターゲットとし、日本で一番備蓄食品を在庫しているといわれる東京都の備蓄食品を廃棄せずに全て寄贈と食品リサイクルに廻しました。

東京都内にある2000近くの福祉施設はもとより、近隣の子ども食堂、NPO、フードバンク等に寄贈を行なった際、寄贈を受けた方々から備蓄食品を使って調理するレシピを教えてくださいという声が上がりました。レシピの開発を小平市、杉並区の学校栄養士、栄養教諭の先生方をお願いしレシピを作り、全国学校給食協会の「月刊学校給食」でレシピを公開しました。その結果、毎日新聞、読売新聞、NHKのあさイチなどのマスコミでも紹介され、施設での利用量が伸びました。

しかしなかにはリユース(寄贈)に提供できない賞味期限切れや、食に提供することが難しいものもあります。寄贈できないものは、飼料化を検討、災害備蓄食品は、容器と中身を分別することが困難なため焼却廃棄されていたものを、リサイクル工場の相模原にある日本フードエコロジーセンターに障害者B型支援施設オンステージ鶴間の方々に来て頂いて、分別工程に入って頂いて、飼料製造の工程で容器と中身を分別し食品残渣としてリサイクル工程に入れることが出来るようにしました。今では、オンステージ鶴間の方々に、現場作業だけではなく郵便物の送付、データ入力などバックオフィス機能の一部も担って頂いています。

また栄養教諭の先生方から学校給食で災害備蓄食品を活用し食品ロスの食育授業をしたいというお話を頂き、平成29年から小平市、小金井市、足立区、千代田区の小学校で防災備蓄食品を使って食品ロス、防災の食育を給食を通じて行い出前授業に出かける活動を始めました。

このような取組が、東京都のホームページで紹介され、国から都道府県及び指定都市宛に出された通知「地方公共団体における災害時用備蓄食料の有効活用について」に参考

事例として紹介されました。今まで自治体の域内処理で当然のように焼却処理されていた入れ替えの災害備蓄食品を、一番の購入先である全国の自治体が寄贈に動く端緒になったことは、嬉しい限りです。以降自治体の災害備蓄食品を小金井市、千代田区、渋谷区、北区等東京都内の自治体を中心に備蓄食品を地域の福祉施設に寄贈するお手伝いをしています。

## 2 フードバンク事業(民間企業)

都内の大手建設会社、IT企業、金融機関、出版社、商社、不動産会社、物流会社、小売業者、あらゆる業種の会社から寄贈、リサイクルについてお声が掛かるようになってきました。備蓄食品の入れ替え時期に限らず、近年コロナ禍で在宅勤務が増えたため、本社機能の集約するために引っ越しで災害備蓄の見直しを図る事業者も有ります。備蓄食品以外に様々な災害対策用品、トイレ、担架、毛布などが出てきます。使えるものは、装備の整っていない福祉避難所に寄贈、リサイクルするお手伝いをしています。

### ▼2023年8月10日プレスリリース

【備蓄食品を全国各地の子ども食堂等へ寄贈】九州豪雨災害被災地で活用も  
今までは、名前を伏せて寄贈される事業者が多かったのですが、最近では三菱食品様とは、プレスリリースを一緒に出しました。

### ▼2022年8月24日プレスリリース

大好評!フードバンクと大学が共同で在学生や留学生の生活支援  
テンプル大学と提携し在学生とウクライナ留学生支援のためにフードロッカーを設けて食料品を提供しています。

## 3 給食と食育活動

### 学校給食と食育

食品ロスを学んで、食べ物を大切に使い切る

子どもたちから家庭へ  
食育による食品ロス発生抑制

きっかけは  
栄養士さん  
の声

食べて学ぶ  
食育のはじま  
り

備蓄食品の  
レシピを作  
って活用し  
よう

学校でも  
レシピを活  
用したい

# SDGs教育プログラム

## 食育をSDGs教育にアップデートし、プログラム化



### プログラム

- 1.教材を使った教育  
「ろすのん」はどうして泣いているのかな?
- 2.食の体験を通じた教育  
エコフィード豚肉の給食体験
- 3.活動の現場から学ぶ  
オンライン工場見学とSDGs講演

### 特徴

小学校全学年＋中学生  
親子参加のプログラムで家  
庭への普及効果  
指導者向けの説明資料  
資源循環に関わる活動者の  
紹介（キャリア教育にも効果）

導入：累計65校

防災備蓄食品を学校給食に提供し、防災教育や食品ロスの出前授業を行ってきましたが、給食で出る食品残渣をリサイクルした飼料(エコフィード)を与えた豚の肉を給食で提供し、体験型の食育授業を行っています。食品残さをリサイクル工場で飼料にし、その飼料を養豚農家で豚に餌とした豚の肉が今日の給食のとんかつになっている資源循環の流れを、サプライチェーンに関わっている生産者、販売者、食品リサイクラーの方々それぞれが教材の中のインタビュー動画で説明して頂いています。

次の世代を育て、取組みを確固たるものにしたいと給食による体験型食育を中心に、「資源循環と食品ロスの食育」、「SDGsに関する食育」を進めています。

この3年間で小学校、中学校での開催実績は、東京都小平市、日野市、小金井市、千代田区、足立区、杉並区、兵庫県たつの市、千葉県富津市、木更津市、長野県大町市、神奈川県相模原市で50校近くに及びます。教材として作成した「『ろすのん』はどうして泣いているのかな?」は、給食とは関係なく全国の小学校の社会科や総合の授業や、大阪環境カウンセラー協会の方々にも市民向けの環境講座で使って頂いて既に全国で3万部以上発行、教材を使うに当たっての活用ガイド、You Tubeでの説明講義等を準備し、オンラインセミナーを開催、食品ロスの授業や講座をされる方々のご支援する仕組みを提供しています。

## 4 農業高校との取組

### 農業高校の活動支援



リサイクル飼料（エコフィード）で豚を育てる三重県立明野高校の生徒たち

- ・リサイクル飼料製造の技術支援がきっかけ
- ・地域課題の解決の取り組みに注目
- ・次世代の担い手としての期待

## 農業高校の活動支援



各地の小学校でエコフィードで育てた豚肉を提供していますが、実は食品リサイクルした餌を使っていることを保証する「エコフィード認証」を取得している事業者は、それほど多くはありません。

そのため給食の納入ルートを構築しながら「エコフィード認証」を取得している三重県立明野高校と熊本県立熊本農業高校を支援する取組を行っています。

三重県立明野高校は、伊勢角屋麦酒のクラフトビール粕で作ったエコフィードを使って豚を育てています。取組を情報発信したいという要望に答え、一緒にビール粕を使ったエコフィードを紹介する説明冊子を作り、全国にある600有余のクラフトビール会社に冊子を送ったところ、10社近くのクラフトビールメーカーから今まで廃棄していたビール粕を飼料化したいというお話を頂いています。

熊本農業高校は、食品メーカーの食品残渣を飼料として希望する畜産農家を結ぶマッチングアプリの開発をお手伝いしています。両校の生徒さんの要望に答え、全国の栄養士、栄養教諭にそれぞれの取組を発信、意見交換するオンラインセミナーを開催、飼料専門家による出前授業やオンライン講義、高校生が地元中学生に行う食育教材の作成指導を行いました。

この2つの農業高校は、地域の食品関連事業者と畜産農家との結節点としての役割を果たしており、よりその地域での取り組みの強化、また事例を周知するお手伝いをしています。

## 事業の歩み

災害備蓄食品のマッチングから目指す未来像に向けての取り組みをご紹介します。







## 編集

環境カウンセラー全国事務局

〒104-0041 東京都中央区新富1丁目15番14号 相互新富ビル307号室

特定非営利活動法人 環境カウンセラー全国連合会 内

URL: <https://edu.env.go.jp/counsel/>

e-mail: [jimukyoku@kankyo-counselor.or.jp](mailto:jimukyoku@kankyo-counselor.or.jp)

TEL : 03-6280-5345

FAX : 03-6701-7382